

原 著

岡山市の児童館の現状と課題 (2)
—— 児童館の幼児クラブの実態調査から ——

八重樫 牧 子

ノートルダム清心女子大学 非常勤講師

(平成9年11月19日受理)

Current State and Problems of
Children's Halls in Okayama City (2)
—— a Survey of Infant Clubs in Children's Halls ——

Makiko YAEHASHI

Notre Dame Seishin University

Okayama, 700, Japan

(Accepted Nov. 19, 1997)

Key words : infant clubs, children's halls, children's centers,
children's recreational facilities, child care support

Abstract

As indicated in my previous article, child care support for the family must be strengthened. The issue is so important that we next examined children's halls in Okayama City.

The purpose was to determine the current state and problems of the infant clubs of children's halls which support family child care. A survey questionnaire was sent to 15 children's recreation workers.

The results show that 22 infant clubs have been set up in 12 children's halls in Okayama City. The following guidelines are suggested: 1) The number of infant clubs should be increased and the function of child care support should be strengthened, 2) Co-operation, adjustment and planning are necessary in planning the activities for child care support.

要 約

前研究において、これからの児童館の強化すべき機能の一つとして、「子育て家庭支援機能」が重要であり、このような子育て家庭支援機能の観点から、岡山市の児童館活動を検討することが必要であると指摘しておいた。

そこで、本研究では、児童館の子育て家庭支援機能の一つである幼児クラブを取り上げ、

その現状と今後の課題を明らかにするために、岡山市の児童館の職員に対して、幼児クラブに関するアンケート調査を行った。その結果、岡山市の15の児童館中、12の児童館で22の幼児クラブが活動を実施していること、また、今後の課題としては、①児童館の幼児クラブの増設と支援強化、②子育て支援活動の連携・調整と計画化が必要であることがわかった。

はじめに

戦後50年を経た今日、少子化の進行、夫婦共働き家庭の一般化、そして家庭や地域の養育機能の低下など、子どもや家庭を取り巻く環境は大きく変化している。このような状況のなかで、これからの児童家庭福祉施策の基本理念として、「子どもの権利保障」や「地域における子ども家庭支援システムの構築」が重要であると認識されるようになってきており¹⁾²⁾、児童福祉制度の見直しも始まっている。児童福祉施設の一つである児童館についても、「子供の未来21プラン研究会」³⁾や中央児童福祉審議会（家庭児童健全育成対策部会）⁴⁾が指摘しているように、児童福祉法の改正を含めた検討が必要になってきている。

一方、政府によるエンゼルプラン及び緊急保育対策等5か年事業の策定に伴い、平成7年度には「児童育成基盤整備等推進事業」が新設され、地方版エンゼルプラン策定のための費用が助成されている。「子供の未来21プラン研究会」³⁾も指摘しているように、今日、特別保育対策や児童館を中心とする健全育成対策、放課後児童対策などは未だ不十分な状況にあり、施設整備や内容の充実等が必要であるが、著しい地域間の格差を生じさせないためにも、とりわけ市町村における「児童育成計画」いわゆる「地方版エンゼルプラン」の策定が重要になってくる。

そこで筆者は、市町村における地方版エンゼルプランの策定に向けて、今後の児童館のあり方についての見通しをえるために、岡山市の児童館の現状と課題について、全国の児童館調査と比較しながら検討を行った⁵⁾。岡山市の児童館の課題として、「児童館の適正配置」と「児童館機能の見直し」について取り上げ考察を行ったが、これからの児童館の強化すべき機能の一つとして、「子育て家庭支援機能」（①デイサービス、②相談・情報提供サービス、③家庭と子育て

に関連社会資源間のコーディネート）が重要であり、このような子育て家庭支援機能の観点から、岡山市の児童館活動を検討する必要があることを指摘しておいた。

全国児童館連合会児童館研究委員会ワーキンググループ'93は、児童館の機能と活動例を表1のように整理しているが⁶⁾、岡山市の場合、「子育て家庭支援機能」の活動例として第1に上げている児童クラブすなわち「放課後児童対策事業」（学童保育）は、児童館以外で実施されている。また専門的な子育て相談も1つの児童館以外では行われていない。しかし、活動例の2番目に提示されている「乳幼児と母親のためのデイサービス」すなわち幼児クラブについては、定期的に開かれていることが、先の研究で明らかになった⁵⁾。

今回は、岡山市の児童館の子育て家庭支援活動の1つである幼児クラブを取り上げ、その現状と今後の課題を明らかにするために、岡山市の児童館の職員に対して、幼児クラブに関するアンケート調査を行ったので報告する。

研究方法

調査の目的は、岡山市の児童館の幼児クラブの概要と活動内容を調査することによって、幼児クラブの現状と今後の課題を明らかにすることである。幼児クラブの概要については、①幼児クラブの名称、②設置年月日、③子どもの年齢、④子どもの登録人数、⑤実施回数、⑥活動時間、⑦運営方法について質問を行った（表2を参照のこと）。また、幼児クラブの活動内容については、活動内容を①運動、②手作り活動、③戸外の遊び、④集う遊び・行事、⑤鑑賞活動、⑥その他の活動に大きく分け、さらにそれぞれの活動の主なものを提示し、それらの活動を実施しているかどうか質問を行った（表3を参照のこと）。

調査対象は、児童館の職員（児童厚生員）で

表1 児童館の機能と活動例

1 子ども育成機能	
① 遊びを通じた援助機能 遊び、創造的体験活動、子ども文化活動、子どもの体力増進活動、社会参加活動を通して、児童の全面的かつ調和的な発達を促す機能（特に健康の増進、自主性・社会性・創造性・感性の育成をはかる）	
活動例	<ul style="list-style-type: none"> ・なかまづくり（社会参加活動・話し相手づくり・バンド活動） ・自尊感情の育成（クラブ活動等による得意技づくり） ・交流活動（高齢者との交流・国際交流・障害児との交流） ・各種体験活動（中・高校生のボランティア体験・生活体験・自然体験） ・運動遊びを主とする体力増進活動（運動遊具による遊び・体力測定調査・日常健康生活の指導） ・子どものたまり場の提供活動（ロビー等） ・表現活動（音楽・造形・劇・ムーブメント等） ・文化の伝承活動（伝承遊び・地域文化の伝承活動）
② 子どもの生活の安定をはかるための援助機能 子ども自身への直接処遇を通して、子どもの生活安定化を援助する機能	
活動例	<ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブ ・子ども家庭相談等 ・電話相談 ・おもちゃ図書館 ・登校拒否児の福祉増進活動（ピア・グループによる支援） ・学習不振児の補習活動
2 子育て家庭支援機能	
子育て家庭のもつ多様なニーズに対応するためのデイサービスプログラムによる支援機能	
活動例	<ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブ（再掲） ・乳幼児と母親のデイサービス ・相談（話し相手から専門相談・親から子どもまでの相談・電話相談） ・単親家庭支援（相談・情報提供・ボランティアの派遣等） ・障害児の福祉増進活動（おもちゃ図書館・レクリエーション・児童クラブ） ・保健所との連携活動（1歳6か月及び3歳児健診のアフターケア等） ・子育て情報の提供 ・母親向け講座 ・ニーズ・児童福祉課題の明確化（調査・広報・提言） ・親同士のたまり場の提供活動（ロビー等）
3 地域活動（社会参加活動）促進機能	
児童健全育成のため福祉視点に立つボランティア活動、関係者や当事者の組織化等、地域社会を拠点とする社会参加活動の育成・推進をはかる機能	
活動例	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動推進（コーナーの設置・グループの育成） ・ジュニアリーダーの育成・組織化 ・母親クラブ・子ども会の組織化 ・児童福祉関係機関施設との連携 ・学校教育関係機関との連携 ・民間の児童関係者団体との連携 ・当事者グループの組織化（登校拒否児・障害児・単親家庭・子育てサークル・非行等） ・地域の団体への機材や場の提供 ・運営委員会の活性化 ・地域コミュニティの形成

注) 全国児童館連合会児童館研究委員会ワーキンググループ'93(1994) 児童館活動の基本コンセプトと新たな活動の展開について（提言）、初版、全国児童館連合会、東京、pp 4-5参照。

あり、岡山市の15の児童館に調査依頼文書、調査票(「児童館の幼児クラブに関するアンケート調査」)、返信用封筒を郵送し、回収した。調査期間は、平成9年1月29日から同年2月20日で、回収率は100%(配布数15、回収数15)であった。

結果と考察

1. 幼児クラブの概要

1) 幼児クラブの設置数

図1と表2からわかるように、12の児童館に22の幼児クラブがあり、幼児クラブのないのはL児童館、M児童館、N児童館の3施設だけである。しかし、O児童館以外の児童館では母子クラブ活動が実施されており、このL、M、N児童館においても母子クラブは実施されている。M児童館の職員によると、乳幼児の数が少ない

ので、母子クラブ以外に乳幼児やその母親のための幼児クラブを設置する必要はないとのことであった。

母子クラブは、市内に居住する母と子の健康の保持増進を図るとともに、母と子の仲間づくりを行うことを目的とした母子クラブ研究協議会によって実施されている。平成7年度の母子クラブの地区組織は82組織あり⁷⁾、児童館は母子クラブの活動の場として利用されている。児童館の幼児クラブは児童館の職員が主体になって運営されるのに対して、母子クラブは母親が主体になって運営されている。しかし、なかには児童館の職員と母親が共同で運営している母子クラブもある。幼児クラブのない先のL児童館とN児童館でも、職員と母親が共同で母子クラブを運営している。

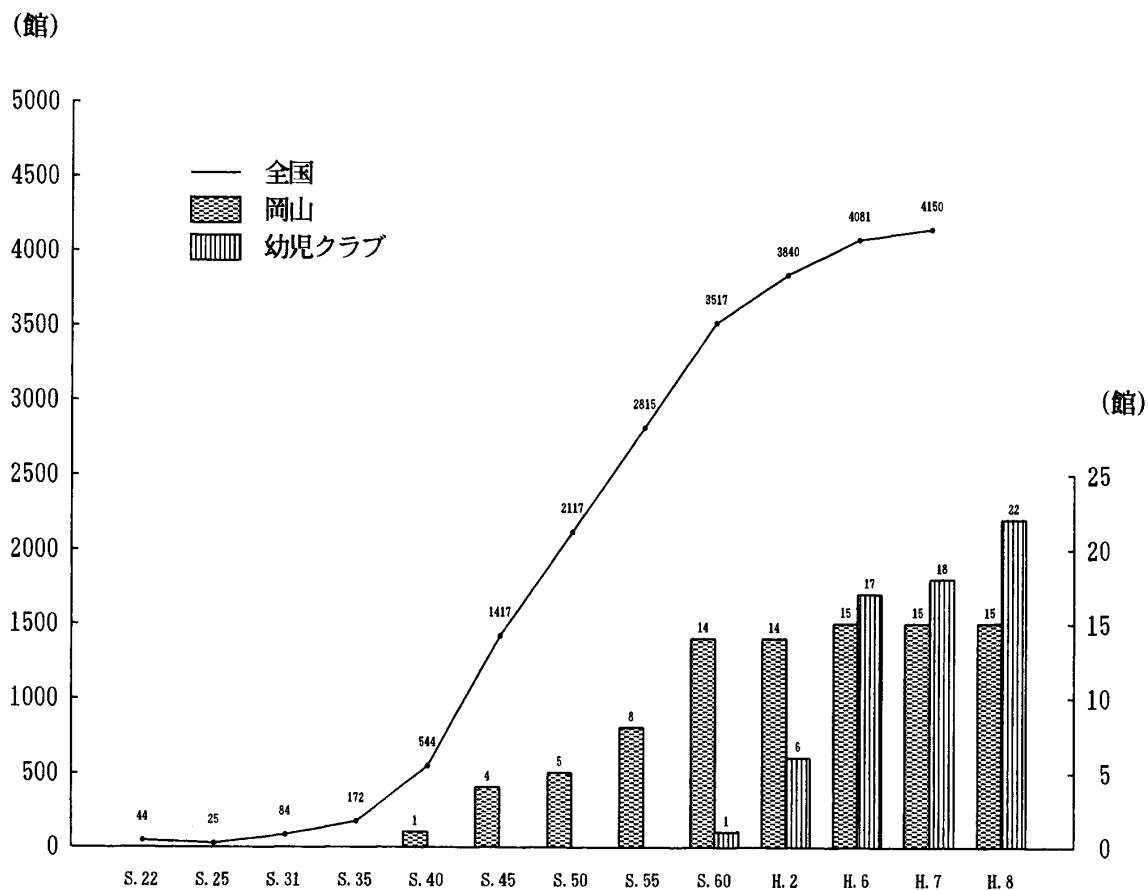


図1 児童館と岡山市の幼児クラブ設置数の推移

注) 昭和22年—35年の全国の児童館数については、厚生省児童家庭局(1978)児童厚生施設の年次推移、厚生省児童家庭局、児童福祉30年の歩み、初版、日本児童問題調査会、東京、p 446を参照。

昭和40年—平成7年の全国の児童館数については、厚生統計協会編(1996)児童厚生施設設置数の年次推移、国民福祉の動向・厚生指針 臨時増刊、43(12)、p 129を参照。

表2 岡山市の児童館における幼児クラブの概要

	館 名	乳幼児クラブ名	設置年月日 (年数)	子どもの年齢	登録人数 (子ども)	回 数	時 間 (活動時間)	運営 方法
1	A 児童館	①ア乳幼児クラブ	平成6.4.1 (3年)	0～4歳	152	週1回	午前10時半～12時 (90分)	イ
2	B 児童館	①イ乳幼児クラブ	平成6.4.1 (3年)	0～3歳	105	月2回	午前10時～11時 (60分)	イ
3	C 児童館	①ウ乳幼児クラブ	昭和62.10 (9.5年)	0～3歳	41	週1回	午前10時半～12時 (90分)	イ
4	D 児童センター	①エ乳幼児クラブ	昭和58.4.1 (14年)	0～5歳	60	週1回	午前10時半～12時 (90分)	イ
5	E 児童センター	①オ幼児クラブ	昭和63.4 (9年)	1～4歳	84	週1回	午前10時半～12時 (90分)	イ
6	F 児童館	①カ幼児クラブ	平成4.6 (5年)	1～就学前	136 (2グループ)	週1回	午前10時15分～11時 (45分)	イ
		②キ幼児クラブ	平成8.4 (1年)	1,2歳	15	月2回	午前10時半～12時 (90分)	イ
		③ク幼児クラブ	平成6.4 (3年)	3～就学前	20	週1回	午後2時～2時半 (30分)	イ
7	G 児童館	①ケ乳幼児クラブ	平成5.4.1 (4年)	0～2歳	20	月2回	午前10時～11時 (60分)	イ
		②コ幼児クラブ	平成5.4.1 (4年)	3歳	25	月2回	午前10時～11時 (60分)	イ
8	H 児童センター	①サ乳幼児クラブ	平成8.4 (1年)	0～2歳	自由参加	月2回	午前10時15分～11時半(75分)	イ
		②シ乳幼児クラブ	平成3.4 (6年)	自由	自由参加	週1回	午前10時15分～11時半(75分)	イ
		③ス乳幼児クラブ	平成6.11 (2.5年)	自由	自由参加	月2回	午前10時15分～11時半(75分)	イ
		④セ幼児クラブ	平成4.4 (5年)	3歳	30	週1回	午前10時半～11時半 (90分)	イ
9	I 児童館	①ソ乳幼児クラブ	平成7.4.1 (2年)	0～1歳	74	週1回	午前10時半～11時半 (60分)	イ
		②タ幼児クラブ	平成1.4.1 (8年)	2～就学前	77	週1回	午前10時半～11時半 (60分)	イ
		③チ幼児クラブ	平成2.4.1 (7年)	3～就学前	58	月2回	午後2時半～3時半 (60分)	イ
10	J 児童館	①ツ乳幼児クラブ	平成1.4.1 (8年)	0～4歳	80	月2回	午前10時～12時 (120分)	イ
11	K 児童センター	①テ乳幼児クラブ	平成8.4.1 (1年)	0～4歳	34	月1回	午前10時半～12時 (90分)	イ
12	L 児童館	なし						
13	M 児童館	なし						
14	N 児童館	なし						
15	O 児童館	①ト幼児クラブ	平成6.6.7 (3年)	3～5歳	自由参加	週1回	午後1時半～2時半 (60分)	イ
		②ナ幼児クラブ	平成6.6.2 (3年)	1～2歳	自由参加	週1回	午前10時半～11時半 (60分)	イ
		③ニ乳児クラブ	平成8.4.19 (1年)	6ヵ月～1歳	自由参加	月2回	午前10時半～11時半 (60分)	イ
備考	乳幼児クラブのある児童館 12児童館 乳幼児クラブのない児童館 3児童館	合 計 22クラブ 平 均 1.8クラブ	平均開設年数 4.7年	乳児のみ 1クラブ 幼児のみ 10クラブ 乳幼児 9クラブ その他 2クラブ	平均人数 63.2人 (自由参加 の6クラブ を除く)	週1回 12クラブ 月2回 9クラブ 月1回 1クラブ	午前 19クラブ 午後 3クラブ 平均時間数 72.3分	22 ク ラ ブ

注) 運営方法

イ. 職員主体で行う方法 (職員がすべて企画運営を行い、母親と子どもは参加するのみ)

ロ. 母親を運営の主体にしていく方法 (母親の世話人体制があり、1年間の幼児クラブの企画、運営、準備すべてを母親が行っているもの)

ハ. 職員、母親の共同運営の方法 (全体の掌握は職員が行い、母親は当番、班という形で関わり、一緒に運営を行うもの)

12の児童館のうちF児童館、G児童館、H児童センター、I児童館、O児童館の5つの児童館では、複数の幼児クラブが設置されており、H児童センターの幼児クラブが最も多く、4つの幼児クラブが実施されている。残りの7つの児童館では1児童館につき、1つの幼児クラブが設置されている。1児童館の幼児クラブの平

均設置率は1.48であった。

幼児クラブの設置数については、地域差があるが、これは乳幼児数が地域によって異なるためである。今後、児童館の在宅の乳幼児の子育て家庭支援機能の充実を図っていくためには、地域の乳幼児の分布を考慮して児童館・幼児クラブの適正配置を考えていかなければならないで

あろう。

2) 幼児クラブの開設後の年数

開設年数の最も長いのはD児童館のエ乳幼児クラブで、14年になっている。全児童館の幼児クラブの平均開設年数は4.7年であった。

岡山市の場合、昭和60年の頃から「乳幼児とその親への支援活動」の一環として、幼児クラブが次々と設置されるようになった。全国的レベルにおいても、平成2年(1990年)以降、子育て支援としての児童館施策が活発に展開されるようになってきている。今日、児童館施策は「子どもが健やかに生まれる環境づくり」の一環として、また「子どもにやさしい街づくり事業」と関連して展開されている⁸⁾⁹⁾。児童館施策は、先に述べた児童家庭福祉施策の基本理念である「地域における子ども家庭支援システムの構築」の一役を担っているわけである。

3) 幼児クラブの対象と子どもの登録人数

幼児クラブの対象となる子ども年齢は、表2からわかるように、幼児のみを対象とする幼児クラブが10クラブあり、乳児と幼児を対象とする幼児クラブは9クラブである。乳児のみを対象とする幼児クラブも1クラブあった。幼児クラブに登録している子どもの数の平均人数は約63人である(自由参加の6クラブを除いて平均をだしている)。ただし実際に参加している子どもは、季節や天候によっても異なるが、だいたい登録人数の半数ぐらいということである。

発達心理学の最近の知見では、子どもの発達には、ごく幼い時から、子ども、大人、いろいろな人びとと交流することで支えられることが明らかになってきており、母親と子どもが閉じた世界におかれがちな今日、すべての子どもに豊かな刺激と多様な人との交流の場が求められている¹⁰⁾。特に保育所や幼稚園に在籍していない2歳児以下の乳幼児やその母親は孤立しがちである。このような現状を踏まえて、武蔵野市では0歳から3歳児とその保護者(主として母親)を対象とする「幼稚園でも保育所でも児童館でもない、今までにない子どものための施設」として「0123吉祥寺」を設立して、地域による子育て支援を実施している¹⁰⁾。このような新しい施設を創設できれば理想的であるが、児童館の幼

児クラブ、特に2歳児以下の乳幼児を対象とする幼児クラブを増設し、その活動の充実を図っていくことも大切であろう。

4) 幼児クラブの活動回数と時間

幼児クラブの約半数である12の幼児クラブが毎週1回、定期的に幼児クラブを実施しており、9クラブは隔週で実施している。月1回のものは1クラブのみであった。

活動時間は、ほとんどの幼児クラブが午前中に実施しており、午後に幼児クラブの活動を行っているのは、3クラブのみである。午前中に幼児クラブを実施する児童館が多くなっているのは、幼児クラブが児童館の午前中の利用拡大の一つの活動として始められ、広がってきたこと、また乳幼児の生活リズムを考えても午後のお昼寝の時間帯より、午前の活動時間のほうが望ましいからであると考えられる。なお、O児童館以外の児童館の開館時間は、10時から17時で、休館日は、日曜日、祝日など(12月29日から1月3日まで)は休館日になっている(ちなみに、O児童館は月曜日が休みで、木曜日と日曜日は10時から18時まで、それ以外の日は12時から18時の午後のみ開館している)。午後、幼児クラブを実施している児童館も、学童が利用する放課後時間までには活動を終了している。

また、活動時間の最も長いのは、J児童館の乳幼児クラブの120分で、最も短いのは、F児童館のク幼児クラブの30分で、平均の活動時間は72分であった。

5) 幼児クラブの運営方法

すべての児童館の幼児クラブは、職員主体で運営されており、職員がすべて企画運営を行い、母親と子どもは参加するのみである。

幼児クラブの運営に母親が参加することには多くのメリットがあるといわれている¹¹⁾。例えば、運営に母親が関わることににより、他の母親や職員との関係が密になり、母親自身の仲間関係が広がっていくし、職員も、母親の要求や悩みをつかみやすくなる。また幼児クラブが、母親の自主グループへと発展する可能性もある。このような子育てサークルなど当事者グループの組織化は、児童館の地域活動促進機能でもある。したがって、今後は、幼児クラブの運営に母親

表3 岡山市の児童館における幼児クラブの活動内容

		A児童館	B児童館	C児童館	D児童館 センター	E児童館 センター	F児童館			G児童館		H児童館 センター				I児童館			J児童館	K児童館 センター	O児童館			合 計	(%)	(%)
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ			
運 動	運動会	○	○	○	○	○	○			○	○		○		○	○	○		○		○	○	○	16	72.7	66.7
	リズム遊び	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	21	95.4	
	その他	○		○	○								○		○	○	○							7	3.2	
手作り活動	工作	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	21	95.4	60.6
	粘土	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○				17	77.3	
	その他															○		○						2	9.1	
戸外の遊び	水遊び	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	○	○	○	20	90.9	56.8
	砂遊び	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○				16	72.7	
	館外活動(散歩、遠足等)	○	○	○	○		○			○	○	○	○		○	○	○							12	54.5	
	その他	○		○																				2	9.1	
集う遊び・ 行事	誕生日会			○			○								○	○	○		○					6	27.3	55.5
	クリスマス会	○	○	○	○	○	○			○	○				○	○	○	○	○		○	○	○	16	72.7	
	お別れ会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○	○	○	○				15	68.2	
	豆まき	○	○	○	○	○				○	○		○						○		○	○		11	50.0	
	その他	○	○	○	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○					13	59.1	
鑑 賞 活 動	映画(ビデオ)			○	○	○	○	○	○	○	○		○				○		○					11	50.0	63.6
	絵本	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○			○	○	○	○	○	20	90.9	
	紙芝居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○		○	○	○	○	○	19	86.7	
	その他	○	○	○	○			○	○															6	27.3	
そ の 他 の 活 動			○		○	○			○			○				○					○	○	○	9	40.9	40.9
合 計		16	15	18	17	14	13	9	11	13	13	7	12	5	13	14	16	6	14	8	9	9	8			
(%)		80	75	90	85	70	65	45	55	65	65	35	60	25	65	70	80	30	70	40	45	45	40			
(%)		80	75	90	85	70	55			65		46.3				60			70	40	43.3					

が参加することも検討していく必要があると思う。

2. 幼児クラブの活動内容

幼児クラブの活動内容を整理すると、表3のようになる。幼児クラブの活動が充実しているのは、C児童館、D児童館、A児童館の乳幼児クラブであった。C児童館やD児童館の幼児クラブは早くから設置されその活動期間が長いためだと思われる。A児童館については、幼児クラブの活動は比較的短い、児童館自体の活動年数が最も長い(調査時点で約32年)ので、豊かな児童館活動の実績があるからだと思われる。

活動内容の実施率が最も低いのは、H児童センターのス乳幼児クラブで25%の実施率であった。その理由は、このクラブが、わらべ歌遊び

を中心とする「うたの広場」であるからであろう。また、乳幼児の利用の最も多いO児童館の幼児クラブの活動実施率は平均43.3で、必ずしも高くなく、むしろ低くなっているが、これは、O児童館が広域の子どもを対象としており、幼児クラブの対象幼児も自由参加であるため、集う遊びや行事のプログラムを計画しにくいのではないと思われる。

幼児クラブの各活動内容項目別にみると、5つの活動項目では特に違いは見られなかったが、具体的な内容別にみると、リズム遊びと工作の実施率が95.4%と最も高く、水遊びや絵本の実施率も90.9%と次に高くなっていた。対象が乳幼児であることを考えると当然の結果であると思われる。幼稚園や保育園で必ずといってほど実施されているお誕生日会については、児童館

の幼児クラブでは27.3%と最も実施率が低くなっていた。幼児クラブの場合、登録しているとはいえ、参加はあくまで自由なので、特定の子どものために実施される誕生日会は計画しにくいのではないかとと思われる。

先に上げた「0123吉祥寺」では「つどい事業」として、月齢別の親子遊びの連続講座・講演会・講習会・お話の会・手作りおもちゃの会・誕生日のつどいなど、時間や場所を決めて実施する活動を行っている¹⁰⁾。この「つどい事業」に参加することがきっかけで、「0123吉祥寺」に来るようになったり交流が始まった親子が多く、親は子どもと遊んだり、子育てについて学びながら、仲間作りをしている¹⁰⁾。しかし、「0123吉祥寺」では、0～3歳児は自由探索、自由選択、自分のペースで活動することを最も好み、またそれが発達を促進するという考えのもとに、プログラムをあらかじめきっちり決めてしまわない自由保育形式の活動、すなわちノンプログラム事業（ひろば事業）が中心である¹⁰⁾。

このような「0123吉祥寺」の活動のあり方は、児童館の幼児クラブ活動を実施していく場合にも参考になる。幼児クラブの活動プログラムは、幼児クラブの参加者の増加・定着を図るのに重要であり、その充実を図っていかなければならない。さらに、児童館の職員は、定期的な幼児クラブの日以外に来館する親子が自由に遊べるように、配慮することもより一層大切である。児童館の職員は、子どもをよく観察し、子どもに対して即座に応答できる機敏さを備え、子どもに予測される活動の展開に見合った素材（遊具）を用意しておくなど、いわば黒子的な役割が重要になってくるであろう¹⁰⁾。

おわりに

以上のように、岡山市では12の児童館において、児童館の午前中の時間を効率的に利用して、定期的（主に週1回）に乳幼児とその親を対象とした幼児クラブの活動が実施されている。幼児クラブは調査時点では22クラブあった。幼児クラブの開設年数の平均は約5年で比較的短く、したがってその運営も職員主体で行われている。また、幼児クラブの活動内容については、児童

館によって差もあるが、親と子が一緒にできる乳幼児向けの活動が取り入れられている。幼児クラブの実施年数の長いもの程、活動内容の実施率が高く、活発な活動が展開されているようである。なお、今回の調査では、幼児クラブの活動が、幼児クラブを利用する親子にどのような影響を与えているかということについては、明らかにできなかった。この点については、今後幼児クラブに参加している母親等に対してアンケート調査を実施していきたい。

最後に、今回の調査からわかった幼児クラブの実態を踏まえ、今後の児童館の幼児クラブの課題について2つの課題、すなわち①幼児クラブの増設と支援強化と、②子育て支援活動の連携・調整と計画化について述べておきたい。

1. 幼児クラブの増設と支援強化

核家族化さらに少子化が急激に進行するなかで、子育て家庭は孤立し、育児の伝承も困難になってきている¹²⁾。また、具体的な育児場面でどうしてよいかわからない母親、あるいは相談相手がいまま育児不安を抱え、ひとり悩む母親も増えてきている¹³⁾。さらに、専業の母親は、就業の機会を失い、子育てに拘束され社会からも取り残されるという焦りを抱いており、経済的・精神的な育児負担感を一層強いものにしていく¹⁴⁾。

児童福祉法を中心とする児童家庭福祉制度について、新しい時代にふさわしい質の高い子育て支援の制度として再構築するために審議してきた中央児童福祉審議会（基本問題部会）¹⁵⁾も、1996年12月に発表した報告書において、「育児情報の氾濫により子育てに対する不安が増大したり、子育てを母親がひとりで抱えることで孤立化するといった問題も見られ、共働き家庭やひとり親家庭などのみならず、専業主婦家庭も含め幅広く子育て家庭に対する支援が必要となっている」と述べている。このような状況のなかで、①豊かな親子関係を育て、②子ども同士の交流を深めると同時に、③母親同士の交流も深め、子育ての悩みを相談する場を提供する児童館の幼児クラブの果たす役割は重要であると考えられる。

岡山市は「乳幼児とその親への支援活動」の

一環として、積極的に幼児クラブの活動を支援してきた。岡山市は平成8年5月に、「おかやま子ども未来プラン（おかやま子プラン）」¹⁶⁾を策定し、公表したが、基本方向の1つとして「子育て相談・支援機能の強化、充実」を掲げ、「子育て仲間づくりへの活動支援」として4つの具体的な取組を上げている。すなわち①母子クラブの育成、②子育て広場の増設、支援強化、③子育てグループの増設、支援強化、④家庭教育学級の増設、支援強化である。児童館における幼児クラブは、地域の子育てグループとして位置づけられる。したがって、これからも一層児童館の幼児クラブの増設や支援強化が重要になってくる。1つの児童館に必要なに応じて年齢別、あるいは目的別の幼児クラブを増設するだけではなく、その前提としてまずは児童館自体の適正配置が必要である⁵⁾。平成9年6月に、総合福祉施設内に設置され、公社に委託された新しいタイプの児童館が開設され、岡山市の児童館は16施設になったが、今後とも児童館の増設を図り、幼児クラブを新設していくことが大切であろう。

2. 子育て支援活動の連携・調整と計画化

地域においては、児童館の幼児クラブ以外にも、母子保健の立場から母と子の健康・育児について学習等を行う母子クラブ、保育所の地域子育て支援センター事業、また社会教育の領域から親や家庭教育に関心をもっている人たちに対して行われる「家庭教育子育て支援推進事業」（子育てひろば）など子育て支援活動が実施されている。岡山市の児童館でも、ほとんどの児童館において母子クラブ活動が実施されている。また、家庭教育学級の場合として、K児童センターのように児童館が利用されている場合もある。岡山市では、82の母子クラブ、全会員数9,497人（母4,419人、子5,078人）が活動しており⁷⁾、4つの私立保育園で地域子育て支援センター事業が実施されている。また岡山市の「子育てひろば」は、現在8ヶ所で実施されている¹⁷⁾。今後、児童館はこれらの子育て支援活動と積極的に連

携を図っていくことが大切になってくると思われる。

そのためには、地域に児童館以外にどのような子育て支援機能をもつ機関や施設があるのか、その実態と機能を明らかにすることが必要である。地域において、各種の児童福祉施設や機関が子育て支援活動を実施する場合には、利用者側の混乱も危惧されるので、複数の児童福祉施設が同種のサービスを重複させ、競合するいうのではなく、機能分担、あるいは一種の棲分けも必要になってくるであろう¹⁸⁾。すなわち、これらの活動の連携・調整が重要になってくるのであるが、その際にこの連携・調整をどこで、誰が、どのように推進していくのかということも問題になる。したがって、このような視点にたった地域における総合的な子育て支援に関する地域福祉計画が必要になってくるのである。

先に述べた「おかやま子ども未来プラン」は、福祉計画の計画段階を示す概念¹⁹⁾でいうところの、構想計画（基本構想）、課題計画（基本計画）であり、実施計画にはなっていない。また目標体系の観点¹⁹⁾からいえば、基本目標と重点課題は提示されているが、重点課題を解決するための諸施策であるところの実施項目については、部分的にしか示されていない。実施項目には、その施策を実行するに当たっての実施細目、すなわち利用対象者の規定、サービス内容、予算、管理運営組織などの項目が含まれ、施策実施のための目標値（数量的目標）も示されなければならないという¹⁹⁾。したがって、今後子育て支援活動の連携・調整を図っていくためには、子育て支援のための実施項目（当然この中に児童館の幼児クラブも含まれる）を明示した実施計画を策定することが必要になってくるであろう。

本調査を実施するにあたりご協力くださいました岡山市保健福祉局福祉部家庭児童課や児童館の職員の皆様に深く感謝いたします。なお、小稿の概要は日本社会福祉学会第29回中国・四国部会研究会（1997年、岡山県倉敷市）において発表した。

文 献

1) 八重樫牧子（1995）今後の児童家庭福祉施策の基本方向。川崎医療福祉学会誌，5（1），109—120。

- 2) 八重樫牧子(1995) 今後の児童家庭福祉施策の基本方向(2). 川崎医療福祉学会誌, 5(2), 49—59.
- 3) たくましい子供・明るい家庭・活力とやさしさに満ちた地域社会をめざす21プラン研究会(子供の未来21プラン研究会)(1993) たくましい子供・明るい家庭・活力とやさしさに満ちた地域社会をめざす21プラン研究会(子供の未来21プラン研究会) 報告書. 子ども家庭福祉情報, (7), 100—110.
- 4) 中央児童福祉審議会家庭児童健全育成対策部会(1995) 児童の健全育成に関する意見. 川超久司編, 月刊福祉増刊号・施策資料シリーズ 社会福祉関係施策資料集13, 初版, 全国社会福祉協議会, 東京, pp 172—173.
- 5) 八重樫牧子(1996) 岡山市の児童館の現状と課題 — 全国の児童館調査との比較を通して —. 川崎医療福祉学会誌, 6(2), 237—249.
- 6) 全国児童館連合会児童館研究委員会ワーキンググループ'93(1994) 児童館活動基本コンセプトと新たな活動の展開について(提言). 初版, 全国児童館連合会, 東京, pp 4—5.
- 7) 岡山市母子クラブ研究協議会(1996) 岡山市母子クラブ研究協議会10周年記念誌 あ・ん・だ・ん・て — ゆっくりすすむ —. 初版, 岡山市母子クラブ研究協議会, 岡山, pp 13—13.
- 8) 八重樫牧子(1997) 戦後日本の児童館施策の動向(1) — 中央児童福祉審議会等の答申・意見具申等を中心に —. ノートルダム清心女子大学紀要 生活経営学・児童学・食品栄養学編, 21(1), 11—28.
- 9) 八重樫牧子(1997) 戦後日本の児童館施策の動向(2) — 戦後日本の児童館施策年表 —. ノートルダム清心女子大学紀要 生活経営学・児童学・食品栄養学編, 21(1), 29—40.
- 10) 柏木恵子・森下久美子(1997) 子育て広場武蔵野市立0123吉祥寺 — 地域子育て支援への挑戦 —. 初版, ミネルヴァ書房, 京都.
- 11) 京都市社会福祉協議会児童館事業研究委員会(1991) 子育て新時代の児童館ビジョン. 初版, 京都社会福祉協議会, 京都, pp 60—61.
- 12) 八重樫牧子・奥山清子(1992) 子どもの問題と児童福祉の課題. ノートルダム清心女子大学紀要 生活経営学・児童学・食品栄養学編, 16(1), 15—24.
- 13) 原田正文(1993) 育児不安を超えて. 初版, 朱鷺書房, 東京, pp 15—15.
- 14) 渡辺秀樹(1994) 現代の親子関係の社会的分析 — 育児社会論序説 —. 社会保障研究所編, 現代家族と社会保障, 初版, 東京大学出版会, pp 71—88.
- 15) 中央児童福祉審議会基本問題部会(1996) 少子社会にふさわしい保育システムについて(中間報告). 厚生省ホームページ.
- 16) 岡山市保健福祉局家庭児童課(1996) おかやま子ども未来プラン(おかやまっ子プラン) — “子ども一人ひとりが輝くまち, おかやま” をめざして —. 初版, 岡山.
- 17) 岡山県岡山市教育委員会(1997) 子育ては親育ち — 岡山市の子育て広場から —. 社会情報, (37), 28—32.
- 18) 古川孝順(1997) 社会福祉のパラダイム転換. 初版, 有斐閣, 東京, pp 187—188.
- 19) 牧里毎治(1992) 市町村地域福祉計画と住民参加. 古川孝順編, 社会福祉供給システムのパラダイム転換, 初版, 誠信書房, 東京, pp 36—39.